

平成25年度事業報告書

1 事業の成果

地元法人より設立当初の予算を上回る寄付が得られたため、10月の理事会において活動予算の変更を行い、調査に必要な機材の充実を図った結果、動物調査で大きな成果を上げることができた。また、旧須山口周辺区域の国有林において静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所と協働で天然林の植物相をニホンジカの食害から守るための植生防護柵を設置するなど、具体的な森林保全事業に着手することができた。学識者による講演会、パネル展示、地元団体への現地説明会を行い、富士山の森林が抱える問題の共有と活動への理解を深めることができた。

2 事業の実施に係る事項

(1) 富士山に残されている天然林を保全、活用する事業

《事業》天然林内への植生防護柵設置

《目的》ニホンジカの剥皮、採食により急速に進む天然林の樹木の立ち枯れと林床植物の貧相化に対し、森の一部をニホンジカから保護して植物相を保護する。

《実施日》11月12日・20日・12月6日・12月16日

《場所》標高1,400m～1,500mの御殿場市印野地先、旧須山口周辺の国有林

《内容》静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所と協働で約400㎡の植生防護柵を4個所設置。

《従事者》ホシガラスの会会員(のべ28名)、静岡森林管理署枝澤署長および職員の皆さん、常葉大学環境防災研究所山田教授および職員、学生の皆さん



軽トラックでの資材の運搬



柵の設置作業



全て設置作業を終了。静岡森林管理署・常葉大学環境防災研究所の皆さんと



柵内の樹木調査と面積を測量

(2) 富士山の森林で過去に失われた生物多様性を復元し、水源涵養力を保全するための事業

《事業》旧須山口周辺の国有林についての説明会を実施した。

《目的》地元で環境活動に関わってきた団体、企業、社団法人の皆さんに、森が今抱えている問題の実態を知っていただき、森林を保全するための機運を高め協力関係を築く。

《実施日》11月14日・15日・20日・12月9日

《場所》標高1,400m～1,500mの御殿場市印野地先、旧須山口周辺の国有林。

《内容》ホシガラスの会事務所などで説明後、御殿場市の旧須山口周辺の国有林に皆さんを案内し、地元の人々が嘗て炭焼や竹行李づくりなどでどのように森と関わってきたかなどを炭焼窯跡などを案内しながら説明、また、宝永噴火後に再生した森、林床の笹枯れ、樹皮の被食と立ち枯れの現状、設置した植生保護柵とセンサーカメラでの動物調査の状況などを見学していただいた。

《従事者》ホシガラスの会会員(のべ12名)。参加者は社団法人印野愛郷振興協会12名、社団法人玉穂報徳会19名、社団法人原里財産区12名、株式会社虎屋環境活動担当者2名。



天然林と人工林の現状、ニホンジカによる被食、立ち枯れの実態を現地で説明しました。

(3) 地域の環境教育に富士山の自然環境を活用する事業

《事業》富士山世界遺産登録記念・NPO法人ホシガラスの会設立 記念講演会
演題「富士山の森の再生とホシガラスの役割」講師・農学博士 渡邊定元
御殿場市まちづくり市民協働事業として開催

《目的》地元の行政に関わる人々、教育関係者、企業、自然保護団体などに広く呼びかけ、富士山の森について理解を深めていただき、NPO法人ホシガラスの会を知っていただく機会とする。

《実施日》10月5日

《場所》御殿場市玉穂報徳会館区民ホール

《内容》来場者は予定を上回る約150名。

地元市民の他、地元の環境団体、協力NPOおよび団体関係者、御殿場市、裾野市、小山町の自治体関係者、地元社団法人関係者、各市町議員、県会議員、青少年交流の家などの公共施設関係者、教育関係者等々、多方面に及び、講演は長年富士山の森の再生に取り組んでこられた富士宮市在住で元東京大学教授渡邊定元先生により、富士山の森林の特性と森の再生、ホシガラスなどの野鳥が森の再生に果たす役割りについてお話していただいた。

《従事者》会員17名。来場者150名

富士山世界遺産登録
NPO法人ホシガラスの会設立
記念講演会
御殿場市市民協働型まちづくり事業

演題 富士山の森の再生とホシガラスの役割り

講師 渡邊定元先生
東京大学農学部教授・三重大学生物資源学部教授
立正大学地球環境科学部教授・環境科学研究所長
などを歴任
専門は、森林生態学、森林育成学、生態系管理学
著書は、「樹木社会学」、「森とつきあう」など多数

※ 富士山の森と生物多様性について午後1時より展示

日時	10月5日(土) 1時30分～3時30分
場所	玉穂支所区民ホール
申し込み	0550-89-6905(勝又)へご連絡ください

主催 特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会
後援 御殿場市・御殿場市教育委員会



NPO設立を記念し渡邊定元博士の講演会を開催、演題は「富士山の森の再生とホシガラスの役割り」

富士山南東麓の国有林などで保全活動を始めたNPO法人「富士山の森を守るホシガラスの会」（横山澄夫理事長）は5日、御殿場市内で設立記念講演会を開き、関係者や愛好家らが富士山独特の植生や保全策を学んだ。

同NPO法人は、北駿地域の複数の保全団体関係者が今年9月に発足させた。戦中戦

**ホシガラスの会が
設立記念講演会**

御殿場



富士山特有の植生などについて解説した記念講演会。御殿場市内

後に造林されたウラジロモミなどの人工林の荒廃、ニホンジカによる食害など、富士山の貴重な自然が破壊される中、天然林を復元し

静岡新聞全県版の記事

《事業》森林管理と森づくりの現地研修

《目的》森林の管理、風倒林の再生について学ぶ

《実施日》10月22日

《場所》住友林業フォレストアーク・まなびの森

《内容》富士山まなびの森管理人の鈴木さんに森を案内していただき、1996年に風倒被害からの森の再生に取り組んでいる場所と、天然林内の散策コースなどの管理について説明していただいた。

《従事者》会員5名

《事業》秋の森づくり県民大作戦行事に参加(協力団体のNPO土に還る木・森づくりの会が主体)

《目的》森づくりに取り組む地元団体との交流

《実施日》11月14日

《場所》国立中央青少年交流の家

《内容》コナラを植樹するとともに、他の団体の方と意見交換ができた。

《従事者》会員2名

《事業》須走口小富士遊歩道調査

《目的》次年度以降本格化する調査のための予備調査

《実施日》11月9日

《場所》須走口小富士遊歩道

《内容》将来、環境教育のフィールドのひとつと位置づけている小富士遊歩道のルートの問題点、森林環境などを確認した。

《従事者》会員5名

《事業》富士山の森と生物多様性についてのパネル展示

《目的》富士山の森を知っていただく

《実施日》10月5日・11月16日～17日

《場所》御殿場市玉穂報徳会館区民ホール 秩父宮記念公園(土に還る木・森づくりの会と共催)

《内容》富士山の森の歴史と現状、東富土地域の自然環境、希少植物、野鳥などの展示で自然環境の問題点と活動の意義を広く伝えることができた。

《従事者》会員のべ22名 来場者計250名



富士山の生物多様性をテーマにしたパネル100枚を展示した

《事業》地域の希少種についての勉強会

《目的》会員が地域の植物についての知識を深める

《実施日》11月14日

《場所》御殿場市市民交流センターふじぎくら

《内容》御殿場市在住の植物研究家渡辺健二氏より、氏が昭和20年代から記録してきた地域の希少植物の生育地、分布などについてお話を伺った。

《従事者》会員6名

《事業》センサーカメラによる動物調査

《目的》森林環境の調査

《実施日》11月12日・20・12月6日・16日・1月30日

《場所》標高1,400m～1,500mの御殿場市印野地先、旧須山口周辺の国有林

《内容》動物学者今泉忠明先生に指導していただき、国有林内の4個所に動物用センサーカメラを設置し、動物の種類と数、行動などを写真、動画に記録。

《従事者》会員のべ12名、今泉忠明先生現地指導2回



動物学者の今泉忠明先生の指導で動物調査を実施、多数のニホンジカ他、ツキノワグマ、イノシシ、タヌキ、テンなどの動物が記録された。